

城から歴史をたどる

三重の城跡めぐり

ここ最近、歴史への興味を深め、

城や城跡めぐりを楽しむ人が増えています。

三重県にも、築城の名手・藤堂高虎が築いた遺構や、

地形を活かした特徴のある城跡がいくつも残っています。

石垣二つひとつに、先人の知恵と技術が活かされ、

城が築かれた背景を知れば、歴史のロマンに心が躍ります。

城跡をじっくり散策し、

三重の歴史の一端に触れてみましょう。

●取材文／椋木敬子 ●写真編集／平田晃・高野寿司

伊勢亀山城跡・多門櫓

多門櫓は三重県で唯一現存する城郭建造物。亀山宿の歴史散策も

伊勢亀山城跡

(いせかめやまじょうあと)

—— 亀山市本丸町

伊勢亀山城は、鎌倉時代に実忠が最初に築城し、その後現在の場所に遷されました。江戸時代には、東海道の要所として城主が目まぐるしく入れ替わり、改修もたびたび行われています。現在残っているのは、多門櫓と石垣などの一部のみ。なかでも18世紀後半ごろに武器庫として建てられた多門櫓は、県内で唯一現存する城郭建造物。県有形文化財

(建造物)にも指定され、平成23・24年には復原修理が行われました。漆喰が映える白壁は、江戸時代の築造時の姿を忠実に復原したもの。堂々と美しい姿に、往事の繁栄がうかがえます。土・日・祝日のみ、櫓内部を公開しています。亀山城下は、東海道の亀山宿としても栄えていました。亀山市歴史博物館では、城や宿場町の模型や、藩主ゆかりの

資料を見ることができます。JR亀山駅に近い東海道周辺では、江戸後期の武家建築を伝える加藤家屋敷跡や、亀山宿を代表する商家建築の旧館家住宅(枳屋)が、風格ある佇まいを見せており、歴史散策を楽しむことができます。

【解説】

- 遺構(いこう)：古い建造物で今日にその一部が残っているもの。
- 多門櫓(たもんやぐら)：石垣と、その上に築いた建物の総称
- 亀山宿：東海道46番目の宿場町

お問い合わせ

亀山市文化スポーツ課まちなみ文化財グループ
TEL 0595・961218



急な石段を上り多門櫓へ



亀山市歴史博物館



江戸後期の家老職、加藤家の屋敷跡



幕末～大正の呉服商旧館家の大店

昭和に建造された白亜の天守と、日本一級の高さを誇る高石垣

伊賀上野城

(いがうえのじょう)

伊賀市上野

忍者の里と呼ばれる伊賀国、その中心である上野城下町に、伊賀上野城があります。場所は、四季折々の風景が楽しめる上野公園内の丘の上。昭和10年に建設された白亜三層の天守が、優美な佇まいで観光客を迎えます。

伊賀上野城は、天正13(1585)年に筒井定次が築城。関ヶ原の戦い後、徳川家康の命により筒井定次は領地を没収され、代わりに伊予国から藤堂高虎が城主として入りました。藤堂高



破風の多い外観が美しい天守



上野公園の西側から見た高石垣



天守は木造建築で格調高い趣



武具甲冑など、実物を数多く展示



俳聖殿は国の重要文化財

を下りた西側の、内堀越しからも見上げることができます。

上野公園内には、ほかにも見どころがいっぱい。日本で唯一の忍者(忍術)をテーマにした「伊賀流忍者博物館」もあります。また、伊賀は俳聖・松尾芭蕉の生地。昭和17年に芭蕉生誕300年を記念して川崎氏により俳聖殿が建造されました。芭蕉の旅姿を模したユニークな姿が訪れる人の目を引きまします。四季折々の景観が楽しめる上野公園で、伊賀の歴史や文化に触れてみませんか。

虎は、西の豊臣方に備え本丸を大拡張しましたが、天守は竣工直前に暴風雨で倒壊。その後、幕府の城普請禁止により再建できず、天守台だけが残りしました。

現在の天守は、当時の代議士、川崎克氏により、天守台の上に建てられた模倣天守です。当時としては珍しい木造瓦葺きで、三層の大天守と二層の小天守から成ります。白亜の端麗な姿は「白鳳城」とも称され、その美しさと貫禄は、思わずため息が出るほどです。

伊賀上野城は、「伊賀文化産業城」として、地域の文化と産業の振興を担っています。天守内には、武具甲冑や、伊賀の焼き物、藤堂家の調度品が展示されており、当時の生活の様子を知ることができます。最上階は、眺望の良さが人気です。ここからは、ぐるっと全方向

に伊賀の町並みを見下ろすことができます。

天井には、横山大観をはじめ、天守建築を祝う名士の大色紙46枚をはめ込んだ天井絵があります。書画の数々と爽快な景観を、ひと時楽しむのもいいでしょう。

藤堂高虎の築城跡をそのまま残しているのが、天守の西側に築かれた高石垣です。堀からの高さは約30メートル。大阪城の石垣と並び、日本一級の高さを誇ります。これは、豊臣方との決戦を控え、大阪城の角に防御の壁を築いたもの。高く急な勾配で積み上げられた石垣は、藤堂高虎の城づくりの特徴です。築城の名手としての力を見せつけられる思いがします。高石垣は、上野公園



天守3階で見られる格天井の天井絵

【解説】

- 伊賀国(いがのくに)：現在の三重県北西部
- 天守(てんしゅ)：城郭の中心となる象徴的な建造物。天守閣ともいう
- 伊予国(いよのくに)：現在の愛媛県
- 普請(ふしん)：家などの建物や、道路を建築すること
- 模倣天守：天守がなかった城に、後に建てられた天守
- 層：建物の階にあたる

お問い合わせ

伊賀文化産業協会

TEL 0595・21・3148

四季折々の散策が楽しめるお城公園。内堀の景観が城の特徴を物語る

津城跡

(つじよあこ)

津市丸之内

津市街の中心部、津市役所の東側に、お城公園と呼ばれる津城跡があります。木々に囲まれた静かな公園には、石垣や内堀が当時のまま残り、往時の津城を偲ばせています。

津城は、天正8(1580)年に織田信長の弟・信包^{のぶかね}が創築。これが津城のルーツとなり、津はその後、城下町として発展していきました。関ヶ原の戦い後、徳川家康の命により、伊予国^{いよのくに}から

築城の名手・藤堂高虎^{とうどう たかとら}が、伊勢・伊賀の城主として入府します。これは徳川幕府が、大坂の豊臣方との戦に備えたもので、藤堂高虎は防御の優れた城への大改修を行いました。

津城の防御の造りがよくわかるのが、公園北側の広い内堀と高石垣です。これは、藤堂高虎の城づくりの特徴でもあります。当時の内堀は一番広いところで、幅100メートルにもおよびました。この距離は、当時の鉄砲玉が届く範囲を超えており、まさに本丸を守るための広さを備えています。高石垣は、高く直線的な勾配が特徴です。高石垣の上は公園の東側から上れるようになっており、幅が広く歩くことができます。高石垣の上を散策しながら内堀や街並みを眺めると、城を守る人々の気持ち



幅の広い内堀と高石垣

昭和33年に建設された三層の櫓^{やぐら}があります。白壁が公園の緑に映え、堂々たる姿で入園者を迎えます。公園の中心は噴水広場です。藤堂高虎の騎馬像が威厳を放っています。園内をまわると、天守台や日本庭園、移築された江戸時代の藩校・有造館^{ゆうぞうかん}の入徳門^{にゅうとくもん}を見ることが出来ます。また、櫓跡や門跡の石垣がこちらこちらにあり、城跡の名残をとどめています。

公園のすぐ南側に、津市の繁栄の礎を築いた藩祖^{はんそ}でもある、藤堂高虎を祀った高山神社があります。津城下の守護

神と親しまれ、今も多くの人が参拝に訪れています。藤堂高虎が手がけた津城跡は、公園となって市民のなかに溶け込み、今も津市の発展を見守っています。

【解説】

●藩祖(はんそ)……江戸時代の各藩の開祖または初代藩主

お問い合わせ

(一社)津市観光協会

TEL059・246・9020



本丸入口に建設された三層の櫓



入徳門は、藩校の講堂の正門



情緒ある日本庭園



藤堂高虎を祀った高山神社



遠くを指差す藤堂高虎像

わかるような気がします。高石垣の景観は、春が特におすすめ。苔むす石垣と桜が織り成す美しい景色を、内堀沿いの歩道から眺めることができます。

緑豊かな公園は、四季折々の風景が楽しめる憩いの場です。春は桜、初夏はアジサイ、秋には紅葉が園内を彩ります。散策を楽しみながら、津城の面影をたどりましょう。公園東側の入口には、

城を堅固に守る見事な石垣。屋根と櫓垣が美しい武家屋敷も必見

松坂城跡

(まつさかじょうあと)

松阪市殿町

松阪市は、古から人々が行き交い栄えてきた地域です。現在の都市としての基盤を築いたのが、天正16(1588)年に松坂城を築いた蒲生氏郷。この町を「松坂」と命名し、城下町づくりを積極的に進めていきました。街道を整備し、有力な商人を呼び寄せ、商業都市・松阪の礎を築いたのです。

松坂城跡は、市街を一望できる小高い丘にあります。建物は残っていませんが、全国屈指の壮大な石垣が見どころです。蒲生氏郷は石垣を造るにあたり、



かつて屋敷のあった本丸

近江から穴太衆と呼ばれる石垣職人を呼び寄せたといわれています。石を自然の形のまま積み上げる野面積みには、何メートルと高く積んでも崩れない高度な技術が施されています。築城当時の野面積みは、天守跡や本丸で見ることができます。

松阪市役所に近い入口、表門跡から入ると、目の前の高い石垣に圧倒されます。当時の入口には、枳形構造と呼ばれる、高い石垣や門に囲まれた空間がありました。敵はその中を、折れ曲がりながら進まなくてはなりません。特に裏門跡は、天守跡にたどり着くまでに枳形が4つも続いていました。敵の勢いをそぐような構造は、石垣の様子からも垣間見られ、守りを大変重視してこの城が築かれたことがわかります。

屋敷は珍しく、国の重要文化財に指定されました。裏門跡に近い軒は内部を公開しています。御城番屋敷の眺めは、二ノ丸跡から見下ろす全景がおすすめです。瓦屋根がまっすぐに続く美しさに、歴史の息づかいを感じるほどです。

松坂城跡には、ほかにも見どころがあります。松阪が生んだ偉大な国学者・本居宣長の旧宅「鈴屋」が移築されており、国の特別史跡に指定されています。表門跡近くには、松阪商人の資料を展示する松阪市立歴史民俗資料館があります。この建物は、明治45年に開

案内板に従い、石垣を左右、前方に見ながら、最頂部の天守跡へ向かいます。松坂城は本丸を中心に、渦巻き状に二ノ丸な

どの郭を巡らせて造られました。実際に歩くと、ぐるっと周りこむような道筋で、石垣の配置から城内の構成を想像することができます。天守跡の石垣には、古墳時代の石棺の蓋も混じっています。築城には大量の石材が必要だったため、石という石が集められたとのこと。歴史の点と点がつながるようなエピソードです。

裏門跡を出た先に、美しく整えられた櫓垣と長屋が連なる御城番屋敷があります。城を警護する武士とその家族が住んでいた屋敷です。長屋の武家

館した図書館に手を加えたもので、左右対称の木造建築が風格ある姿を見せています。保存状態の良い史跡の数々が、松阪市の今の発展を物語っているようです。

【解説】

- 近江(おうみ)：現在の滋賀県
- 穴太衆(あのはしゅう)：織田・豊臣の時代から活躍したといわれる石垣職人の集団
- 郭(くるわ)：石垣などで区画した区域のこと

お問い合わせ

松阪市観光情報センター
TEL 0598・23・7771



二ノ丸の高石垣



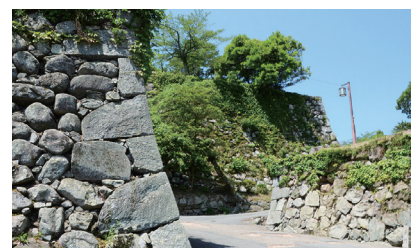
二ノ丸跡から眺める御城番屋敷



本居宣長の旧宅「鈴屋」



松阪市立歴史民俗資料館は建物も必見



複雑な構造をもつ表門跡付近の石垣

三重県で唯一、海に接した海城。本丸跡からの海の眺めも爽快

鳥羽城跡

(とばじょうあと)

鳥羽市鳥羽

三重県には、城の正門が海に面して造られた、全国でも珍しい形の城跡があります。鳥羽駅から南へ向かい、城山公園への案内板に沿って行くと、九鬼嘉隆の家紋が描かれた幕を見つけることができます。ここが、海城と呼ばれる鳥羽城跡です。



鳥羽城跡の入口にあたる三の丸跡



棚田のような石垣の風景



野面積みの石垣



小山の頂上、本丸跡からの眺め

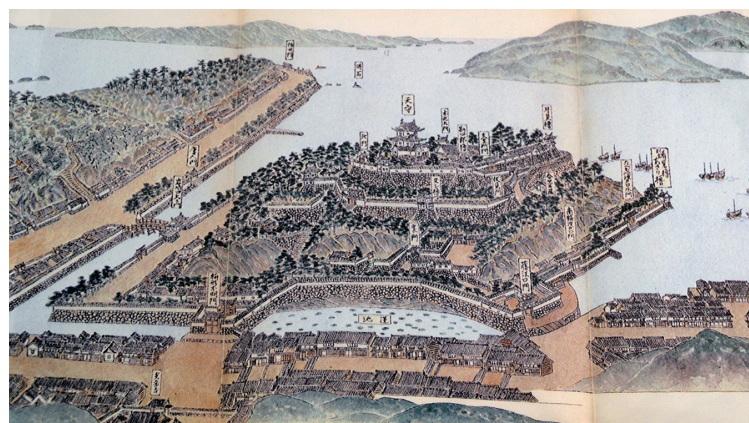
鳥羽城は、文禄3(1594)年に、九鬼嘉隆によって築かれました。九鬼嘉隆は、織田・信長や豊臣・秀吉のもとで、水軍の将として活躍した人物です。彼が率いる強力な水軍は九鬼水軍と称され、その強さは全国屈指でした。九鬼嘉隆は、鳥羽城が完成する2年前に、豊臣秀吉の朝鮮出兵に水軍総大将として出陣しています。

鳥羽城は、海に突き出た標高40メートルの小山に築かれました。城の正門である大手門の位置は、現在の鳥羽水族館のあたり。大手門を海に向けた独特な造りは、全国的にも珍しいとされています。船での出入りを重視した、まさに水軍の城としての威容を誇っていたのでしょう。大手水門と呼ばれていることから、その様子がうかがえます。内陸

す。今では、大手水門や堀を見ることはできませんが、城跡の名残をたどり、小山を上ります。

幕が目印の入口は、三の丸跡にあたります。ここから通路を上っていくと、左に棚田のような石垣があり、下から見上げる景色が印象的です。小山の形状を、そのまま活かして城が築かれたことがわかる風景です。階段や坂を上っていくと、城山公園として整備された広場に。さらに上をめざすと、本丸跡にたどり着きます。本丸跡の周囲には、石をそのまま積み上げた野面積みが多く残

側に巡らされた堀は、海水に満たされていた。まさに四方を海に囲まれた海城ですが、内陸側の堀の一部は池になっていました。蓮池と呼ばれ、真水を貯めて飲み水を確保していたそう。



鳥羽城古絵図／志摩郡史(鳥羽誌)付録*

ります。山頂である本丸跡はとて広く、見晴らしが良い場所。天守も、海が一望できる位置に建てられていました。目の前に浮かぶ真珠島は、風や波から城を守る防波堤の役割を果たしていたそう。眼下に海が広がる爽快な風景を眺めながら、水軍の城の情景に思いを馳せます。海城ならではの城跡に、ほかとは違う趣を感じることでしょう。

お問い合わせ

鳥羽市歴史文化ガイドセンター
TEL 0599・25・8255

山の地形を巧みに活かした城づくり。四季の山の風景も満喫

赤木城跡

(あかぎしやうあと)

熊野市紀和町

山が連なる熊野市紀和町、標高230メートルの丘陵地に赤木城跡があります。築城の名手・藤堂高虎によって造られた赤木城跡は、築城当時の原形を残す貴重な遺構として整備され、国史跡に指定されています。

藤堂高虎は、豊臣秀吉の紀州攻めの際にこの地に入り、伊予国を与えられるまでの11年間でここを過ごしました。この間に、北山材の切り出しや、太閤検地に抵抗する北山揆の鎮圧に努

めています。赤木城は反対勢力を抑える拠点として、天正17(1589)年ごろに築かれたといわれています。

主郭まで何度も曲がって上る

駐車場に着くと、まずは立派な石垣に驚かされます。施設の横に縄張り図を説明するパンフレットがあるので、散策の参考にするといいでしょう。城は山の地形を活かし、主郭を中心に三方の尾根と山裾に郭が設けられています。最頂部の主郭までは、通路を何度も曲がって上る複雑な構造。通路を上っていくと、敵に一気に攻め込まれない工夫がよくわかります。主郭は高さ4メートルほどの石垣の上。あちらこちらに、石垣を突出させた部分があります。これは横矢掛りといって、敵を側面から攻撃するための張り出しです。迫る敵に弓を射かける様子が目に浮かぶようです。

跡は、お花見の穴場スポットでもあり、主郭を中心に桜の木が植えられています。春には山の緑を背景に城跡を美しく彩ります。築城の名手の城づくりを、四季折々の山の風景とともに楽しみましょう。

解説

- 紀州攻め：織田信長と羽柴秀吉(後の豊臣)による紀伊(三重県南部、和歌山県)への侵攻
- 太閤検地(たいこうけんち)：羽柴秀吉が行った田畑の測量



桜の木が植えられた主郭



見晴らしが良く雄大な景色



地形に合わせて配された石垣

ここから眺める風景は格別です。遠くの敵を見つけられるほどの見晴らしの良さ。眼前に迫る深い山々、山間の集落や棚田が一望でき、その静かな情景にしばし時を忘れるほど。城を守る武士も、この景色を眺めていたのでしょうか。

紀和町は、秋から冬にかけて霧が発生しやすい地域です。この時季になると、石垣が朝もやに包まれ、幻想的な光景を見ることが出来ます。また、赤木城

- 北山揆(きたやまいつき)：奥熊野の地侍を中心とした揆
- 縄張り図(なわばりず)：城の平面図
- 主郭(しゅかく)：城の中心的な役割を担うところ

お問い合わせ

熊野市観光スポーツ交流課

TEL 0597・89・4111

◆5つの城郭を巡るスタンプラリー

今号で紹介した5城(赤木城を除く)を巡るスタンプラリーが行われています。詳しくはホームページをご覧ください。

● <http://www.tsukanko.jp/model/1016/>
(津市観光協会HP)

◆登城記念の御朱印を発行

同じ5つの城郭で、城の御朱印を発行しています。

お問い合わせ先 ● 亀山市観光協会
● 伊賀市観光協会 ● 津市観光協会
● 松阪市観光協会 ● 鳥羽市観光協会

※スタンプ、御朱印とも、城跡ではいただけない場合がありますので、事前に確認することをおすすめします。

